

令和 4 年度 異常気象分析検討会（第 1 回） 議事概要

1. 開催日時

令和 4 年 8 月 22 日（月）13：30～15：35

2. 開催場所

気象庁会議室 2（気象庁 6 階）

※テレビ会議システムによる開催

3. 出席者

別紙 1 のとおり

4. 議題及び検討結果の概要

6 月下旬から 7 月初めの記録的な高温を中心に、今夏の天候の特徴とその要因について、資料 1 を用いて検討を行い、報道発表資料「6 月下旬から 7 月初めの記録的な高温及びその後の天候の特徴と要因について」(令和 4 年 8 月 22 日発表)¹のとおり見解をとりまとめた。主な要因は以下のとおり。

- ・ 6 月下旬から 7 月初めの記録的な高温は、日本付近で上層の亜熱帯ジェット気流が北に蛇行し、上層の高気圧と地表の太平洋高気圧がともにこの時期としては記録的に強まったことが主要因で、これに持続的な温暖化傾向が加わったためとみられる。
- ・ その後 7 月中旬にかけて各地で大雨が発生した要因としては、日本の北方でブロッキング高気圧が持続するとともに、亜熱帯ジェット気流が日本付近で南に蛇行し、上層の寒気の影響を受けやすかったことが考えられる。
- ・ 7 月末から 8 月中旬にかけては、亜熱帯ジェット気流の北上に伴い、北日本付近に前線が停滞しがちで大雨となった一方、西日本を中心に高温となった。

¹ <https://www.jma.go.jp/jma/press/2208/22b/kentoukai20220822.html>

令和 4 年度 異常気象分析検討会（第 1 回） 出席者

異常気象分析検討会 委員

- ◎ なかむら ひさし 中村 尚 東京大学先端科学技術研究センター 教授
- うえだ ひろあき 植田 宏昭 筑波大学生命環境系 教授
- かわむら りゅういち 川村 隆一 九州大学大学院理学研究院 教授
- きもと まさひで 木本 昌秀 国立環境研究所 理事長
- たにもと よういち 谷本 陽一 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授
- なおえ ひろあき 直江 寛明 気象研究所気候・環境研究部 室長
- のなか まさみ 野中 正見 海洋研究開発機構アプリケーションラボ
グループリーダー
- ひろおか としひこ 廣岡 俊彦 九州大学大学院理学研究院 教授
- むこうがわ ひとし 向川 均 京都大学大学院理学研究科 教授
- わたなべ まさひろ 渡部 雅浩 東京大学大気海洋研究所 教授
- (○) たかやぶ ゆかり 高藪 縁 東京大学大気海洋研究所 教授 (は欠席)
- (つぼき かずひさ 坪木 和久 名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授 (は欠席)
- (◎ : 会長、○会長代理、敬称略、会長・会長代理以外は五十音順)

気象庁

大気海洋部

部長

業務課長

気候情報課長、異常気象情報センター所長

環境・海洋気象課長、海洋気象情報室長

予報課長

気象リスク対策課長

情報基盤部

数値予報課長

気象研究所

気候・環境研究部長、気候・環境研究部第一研究室 主任研究官

その他関係官